

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和元年 11月 8日

事業所名 児童デイサービス すだっち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	4	・利用者が多いときなど、サンアビやあそらぼで活動するなど、社会資源を活用している。 ・職員だけが入れられる部屋を表示している。	・担当児童が1階と2階に分かれた場合、目が行き届かず、注意が必要。 ・子供が落ち着く部屋(カームルーム)が1つ必要。
	2	職員の配置数は適切である	10	0	・勤務表に反映している。	・担当児童には、責任をもって目を向ける必要がある。 ・玄関先の階段は手を繋ぎ、付き添う等の配慮が必要。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	4	・外のスロープは車いす対応可。	・階段に手すりはあるが、児童によっては付き添い等の配慮が必要である。 ・急な階段、トイレが狭い等、構造上の問題力所もある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0	・全体会議や毎日、朝夕礼で申し送り事項に抜けが無いよう振り返りで周知している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	調査結果を職員全員が周知している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	5		・今後の課題である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	・研修計画のそれに伴う職員配置をしている。 ・管理責任者等が中心になって計画をしている。	・個々の研修はよくあるが、事業所内での全職員の研修が必要。(全体会議内)
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	・自己判断ではなく、全体会議を実施し共有している。 ・日々の活動の中で出された意見も記録している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	4	・個人ファイルの中に情報を記入している。	・必要であれば活用。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	・担当職員を中心に考えている。	・立案・工夫はなされているが、十分なのかどうかは検討する必要がある。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1	・担当職員を中心に考えている。 ・他の事業所の良いところを取り入れている。	・立案・工夫はなされているが、十分なのかどうかは検討する必要がある。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	1	・今年の夏休みから児童自らが、当日の活動を定めるボードを活用したのは良いことだと思う。 ・毎日の予定表に反映している。	・立案・工夫はなされているが、十分なのかどうかは検討する必要がある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	・担当者で適宜、判断している。	・立案・工夫はなされているが、十分なのかどうかは検討する必要がある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	・朝礼にて確認。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	・振り返りにて確認。 ・休みの職員も翌日必ず確認している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	・日誌、連絡帳の記入を徹底している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	・全体会議で実施。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	9	1			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	2	・今後、指導員の参画を調整する。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	0	・LINEを導入し、保護者との連絡、伝達に活用している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	6		・看護師不在のため難しい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	8	・保護者や相談員により情報をファイルにまとめ、共有している。(てんかん発作対処法など)	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	9	・保護者や相談員により情報を共有している。	・依頼・要請があれば提供する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	4		・今後の課題である。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	8		・今後の課題である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	6		・今後の目標、課題である。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	・送迎時や座談会で実施。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	2	・肯定的な注目やリフレーミングを基本としている。 ・ペアレントまでは行っていないが、子育ての支援や子供の日常の出来事など、関わり方のアドバイスなどを行っている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10		・管理責任者が実施。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	・連絡帳を有効に活用する。	・個人的な意見でなく、全体で話し合い職員間の共通理解が必要。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	1	・送迎時で得た情報を職員間で共有するようにしている。	・もう少し機会を増やしたい。 ・強化していきたい。 ・参加者は、毎回2~3人ぐらいなので、保護者の感心を引く企画を考えていきたい。 ・定期的な実施を目指す。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0	・毎月のすだち通信配布、連絡帳に記入、グループラインで発信。	
	35	個人情報に十分注意している	10	0	・施設外には持ち出していない。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	3	・ワーカーズ主催の「もちつき」や「サンアピ祭り」を実施している。 ・自治会総会に参加。	・駐車場の関係で難しいが、近隣住民との交流がもう少し欲しい。 ・理解はしてくれている。行事の時は案内のチラシを配布する。

7	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	1	・すだっち通信やLINEで周知している。 ・訓練の実施。	・時々、確認する必要がある。 ・児童が怖がらないように工夫する必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	・訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0		・全体会議の際に共通理解できている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	2		・記載し、説明、了承を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	1	・保護者からの情報をもとに適切に対応。 ・指示書が判断のもと。	・目につくところに表示する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	・報告書を作って全員に周知している。	